
私の世界は赤色で.....。

セラ・シンツキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の世界は赤色で……。

【Nコード】

N1796J

【作者名】

セラ・シンツキ

【あらすじ】

平凡に暮らしていければいい！
それだけでよかった、だけど友人に誘われて服を買いに行くのだが、その道中で、ロリコンと『ヤ』の付く口調の男と出会って。
しかも最終的にはトラックに跳ねられて森に飛ばされた！
滅茶苦茶意味が分からない！！ だけど、分かる事もある。
私の平凡な毎日が奪われた。 私の日常生活を返せええええ！！

私の日常生活を返せええええ！！！！（前書き）

気分で一気に小説投稿！

これからよろしく！

私の日常生活を返せえええ!!!

平凡な毎日はずまらない。誰がそう決め付けたのだろうか？
たまに、本とかで見る。『平凡でつまらない毎日』と言う言葉。
だけど、私はその平凡だけで十分だった。毎日友人と話して、遊
んで、笑って。他に何もいらぬ、ただ普通に過して、普通に年取
って、普通にベッドの上で死んで行くだけでよかった。
だけど、そんな毎日は一瞬で崩れ去った。

「ふざけんなああああ!!!!!!」

真後ろから迫り来るのは小さな子供の様な化け物。子供の姿なの
だが、頭には角が二つ生えて、手には棍棒を持っている。顔は…
…直視したく無い程気持ち悪い。
ちなみに、私は現在、全力の猛ダツシュでどこだか分からない森
の中を駆けていた。

「コボコボ」「コボコボ」

「それは鳴き声なの！ 気持ち悪い！ 滅茶苦茶気持ち悪いわよ！
？」

逃げるのは止めた、逃げてた所で逃げ切れる気がなくなつて来
た。大丈夫、相手は小学生が木の棒振り回してるのに対して変わら
ない。倒せる！

「ゴボアア!!!」

始めの一匹が棍棒を大きく振り上げて飛びかかって来る。良く見
る私、別に私の眼でも追える。

私はソイツの手首を掴み取り、そのまま体を反転させる。

「ぶっ潰れる！」

そのまま大きく腕を振り、化け物を投げ飛ばした。よし、倒せた！

「あ、あああああああああああ！！！」

背中に強烈な痛みが奔り、私は吹き飛ばされた。真後ろにはもう一匹の化け物が棍棒を振るっていた。

痛い……痛い……痛い痛い痛いイタイイタイ！！！！

「あ、う、いたあい……」

叫びたい、泣きたい。だけど、そんな事言えない程痛い。

目の前が滲んでみずらい、さっきの化け物が少しずつ近づいてくるのがなんとか見えるぐらいだった。

どうして？

私は、ただ平凡に暮らしていたかっただけなのに。

「はあ？ 買い物？」

「たまにはいいじゃない。女なら少しは服とか気にしたら？」

「別にいいわ、可愛く見せたい訳でも無いし」

ゆつくりと過せればそれでいいわ、いちいち服とか着て可愛い子ぶるのは面倒だし、何より私に会わない。

「ん、じゃ、ボディガード？」

「オイ」

「別にいいじゃん？ セラセラは喧嘩強いし？ 男に任せるよりも気が楽だし」

私だつて女なんだけど？ いくらお洒落とかしなくたってか弱い女の子なのよ？

それに別に喧嘩が好きって訳でも無いし……。

「つて私が喧嘩強いってどうしてそんな事が分かるのよ？」

「噂で付きまとつた柔道部の男を」「分かった、もう言つな」
それで、いいでしょ？」

柔道部の男つて奴は私の事が好きらしくてストーカー紛いの事をしてたから、私がマジ切れしてそのまま背負い投げをしたのだ。昔から護身用の技として覚えていた背負い投げだったけど、油断してた柔道部の男は易々とそのまま投げられて、そのまま気絶した。それが噂になつちやつたみたいで……。

「分かったわよ、だけど。私、忙しいし、少ししか一緒にいられないわよ？」

「大丈夫！ 買いたい服はもう決めてる！」

仕方ないなあ……と思いつながら私は自分のバッグを持ち上げてそのまま友人と歩き出した。

と言つても、行く店はいつも決まってるさっきの場所からは意外と近い所だったりする。

もちろん、彼女が言ったボディーガードって言うのもただの口実だ。だって事は分かっていた。

「なあなあ、俺と一緒に遊ばないか？ 楽しいからさ」

「だけど、こんな時に限ってこの手の輩がいるんだなあ……。としてみじみと思う。」

そして私が声のした方向に振り返った。

「……………うわあ……………」

小学生ぐらいの少女に向かってしゃがみながら声をかけているのは高校生ぐらいの男で、その顔はニヤケまくり、はつきり言ってドーン引きした。

「あれってロリコン？ 高校生みたいだし」

「ただのナンパ野郎より、性質が悪いわ」

ちなみに、女の子の方は怖がったそぶりは見せていない。高校生の方は顔がニヤケまくなって気持ち悪い。

「ほら、苺の飴玉だ。美味しいぞ？」

「周りから見たらただの危険人物にしか見えない。ともかく、見てて気持ち悪いから成敗しよう。」

「おい、アンタ「お前」は？」

「誰かの声と重なった？ そう思いながら声のした方向を見ると同じ高校生らしい男がいた。」

「仁よオ、お前さア、いきなりどつかに行つたと思つたら、こんな
人気がある所でなにやってんだア？」

「あ、のぶうち。この子可愛いぜ？」

うわ、この人、怖ッ！ 話し方が滅茶苦茶『ヤ』の付く人達みた
いなんだけど！？

「よオ、仁。俺はこんなテメエの遊びに付き合つ為に付いて来たん
じゃねえんだけどさア？」

って女の子がめっちゃ泣き出しそうじゃない！

「おい、あんた等！ 特にそつちのヤクザみたいな方！ その子滅
茶苦茶お怯えてるじゃないの！」

「あア？」

う、やっぱり怖い……。

「おー、可愛子ちゃんじゃないか、のぶうちそんな睨むなよ可哀想
だろ！」

「チツ」

「俺は夏目仁って言うんだ。好きな者は幼女で可愛ければなんでも
良し！」

「そんな事聞いてないわよ！ つうか、さっさとその子から離れな
さい変人！」

だけど、いつまでも女の子の傍にいる……もう、いいわ。実力行
使よ！

体を滑り込ませる様にして男と女の子の間に入り込んだ私はその

まま男の胸倉と腕を掴んで投げの体制に入る。その瞬間、仁と呼ばれていた男の眼が見開いたが私は。

「女から触れに来るなんて大歓迎！」

ロリコンで変態野郎を地面に落とした上から顔面を打ん殴って沈黙させて、女の子を掴んで離れた。

「いやあ、中々効いたねえ。美少女で背負い投げなんて中々されるもんじゃないしいい経験したなあ」

中々つてかきつと人生で一度しか無いわよ。

「てか、アンタの生命力はゴキブリ並みか！ 本気で投げて打ん殴つたのに！」

私は女の子を友人の方に行く様に言った後、仁と向き合っていた。

「おいおい、いい加減、さっさと用事を済ませて、帰りにエムだけどきア？」

「おおう、ちょっと待て、なな、名前だけでもいいから教えてくれ！」

「誰かアンタなんかに！」暴力振るつたよね？ 無抵抗の人に「うっ」

た、確かにそれはしたけど、正当防衛には。うわ、ならないわ。私が一方的にやっただけだし。

「私の名前は神月瀬羅よ……これでいい？」

「大満足！ あ、ちなみにこっちの奴は金澤（かなざわ）のひめき 伸明」

「チツ！　なんで俺の名前までいつてんだア？　テメエは？」
「いいじゃないか！　相手は美少女だぞ！」

いい加減、こいつ等から離れたくなって来た……。いや、もう話は終わったし離れよう。

そう思っただけ振り返った瞬間だ。

「セラセラ！　危ない！」
「えっ　？」

目の前から迫り来るのはトラック、しかも車道を外れてこっちに向かっただけ。避けられない。

そして、私は気を失った。
そこで冒頭に戻る。

眼が覚めれば森の中、そして後ろを振り向いた瞬間、化け物が襲い掛かって来ていて、私は走って逃げた。そして一匹を背負い投げしもう一匹に背中をおもいきりやられた。

あ、もう理不尽すぎて泣けて来る。私の人生ここで終了？

「ゴボアアアア！！！！」

そして棍棒が放たれた。

「女の子相手に何やってんだ、この化け物がああ！！！！」

真横から何かを通り過ぎてそれは、化け物の腹に食い込みそのまま吹き飛んでいく。

「おい、大丈夫か！？　くそ、あの化け物めが！？」

「ア……………タ……………は……………？」

「リュウザキハヤト竜崎隼人！ 今は覚えなくていいから喋るな！」

そして私は男に抱きかかえられて、また意識を失った。

私の日常生活を返せえええ!!! (後書き)

感想とか、意見とか、その他もろもろ待ってるから
いっぱい送って来てほしいわ!

お願いします!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1796j/>

私の世界は赤色で.....。

2010年10月23日11時11分発行